

# I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 75

## Zoot Sims【ズート・シムズ】

～卓越したスイング感で人気を誇った名サクソ奏者～



Photo : Zoot Sims "Swing King!" (Proper Records)

### Profile

1925年10月29日、米国カリフォルニア州イングルウッド生まれ。本名は John Haley Sims。“ズート”はニックネームで、ケニー・ペイカー楽団に在籍していた頃、バンド仲間に「おしゃれ」「めかし屋」の意味を持つ“ズート”と名付けられ、以降通名となった。父親はタップダンサーで、ヴォードヴィル芸人の家庭に生まれる。少年時代はドラムスとクラリネットを演奏。その後、レスター・ヤングに影響を受けてサクソスを手にする。第二次大戦中にビッグ・バンドに参加。40年代初頭より、シド・カトレットやジョー・ブッシュキンと共演。兵役後、兄のレイ・シムズとベニー・グッドマンのグループに参加。アーティ・ショウ、スタン・ケントン、パディ・リッチ等のビッグ・バンドにも参加。47年に第2期ウディ・ハーマン楽団のサクソス・セクションに、サージ・チャロフ、ハーヴィー・スチュワード、スタン・ゲッツと共に参加。53年にスタン・ケントン楽団、54年にジェリー・マリガンバンドに参加。その後、フリーとなりウエスト・コーストで活動。57年にアル・コーンと“アル&ズート”を結成し、人気を集めたことをきっかけにニューヨークを拠点に活動。62年に世界で初めてジャズとボサ・ノヴァを融合したアルバム『ニュー・ビート・ボサ・ノヴァ』を録音。60年代以降は様々なレーベルで、数多くのレコーディングに参加。73年にパブロ・レーベルと契約し、カウント・ペイシーやサラ・ポーン等と共演。76年5月に初来日を果たす。84年にヨーロッパ・ツアーを行うなど、晩年まで演奏活動やレコーディングを続けた。1985年3月23日、米国ニューヨーク州で肺がんにより息を引き取り、ニューヨーク州ナイアックに佇むオーク・ヒル墓地に埋葬された。享年59歳。

# ZS's Great Album

1950年代から晩年の1980年代まで各年代毎にコンスタントに作品をリリースし、数多くリーダー作品を発表続けた。サイドマンとしても多くの作品で名演を残している。

ベイシー楽団のレパトリーを中心に選曲したスイングーなアルバム



**ダウン・ホーム +6**  
**ズート・シムズ・カルテット**  
(Solid/Bethlehem : CDSOL-45502)

ズート・シムズ (ts)、デイヴ・マッケンナ (p)、ジョージ・タッカー (b)、ダニー・リッチモンド (ds)

1. ジャイヴ・アット・ファイヴ 2. ドッグン・アラウンド 3. アヴァロン 4. アイ・クライド・フォー・ユー 5. ビル・ベイラー (他、全14曲)

最強のメンバーとワンホーンで吹き込んだ1970年代の名盤



**ニルヴァーナ**  
**ズート・シムズ**  
(Solid/Groove Merchant : CDSOL-45901)

ズート・シムズ (ts)、バックキー・ピザレリ (g)、ミルト・ヒントン (b)、パディ・リッチ (ds)

1. サマーセツト 2. ハニーサックル・ローズ 3. ア・サマー・シング 4. 誰かが私を愛してる (他、全11曲)

1970年代後半の名手ズートの円熟期の名演を収めたライブ盤



**イン・コペンハーゲン**  
**ズート・シムズ**  
(Solid/Storyville : CDSOL-6905)

ズート・シムズ (ts, ss)、ケニー・ドリュー (p)、ニールス・ペデルセン (b)、エド・シグペン (ds)

1. グルーヴィン・ハイ 2. トゥー・クローズ・フォー・コンフォート 3. オール・ザ・シングス・ユー・アー (他、全9曲)

1960年7月にカウント・ベイシー楽団のレパトリーを中心に名門レーベル、ベツレヘムに吹き込んだ作品。ピアノのデイヴ・マッケンナ、ベースのジョージ・タッカー、ドラムのダニー・リッチモンドとのワン・ホーン・カルテット編成で、「ジャイヴ・アット・ファイヴ」「ドッグン・アラウンド」「アヴァロン」の別テイクを含む14曲を収録。レスター・ヤングの流れを汲むズートのテナーの音色、メロディ・センスを堪能できる作品。

録音は1974年。バックキー・ピザレリ、ミルト・ヒントン、パディ・リッチという玄人好みの最強のメンバーと共に、ズートのワンホーンが聴けるアルバム。「ハニーサックル・ローズ」「誰かが私を愛してる」「ジー・ベイビー・エント・アイ・グット・トゥ・ユー」「インディアナ」等、スタンダードを中心に吹き込んだズートの1970年代の名盤。「ニルヴァーナ」で聴けるミルト・ヒントンのいぶし銀のウォーキング・ベースも必聴。

1978年8月24日にデンマーク・コペンハーゲンの「ジャズハウス・スロウエフタ」で行われたライブ音源を収録。ケニー・ドリュー、ニールス・ペデルセン、エド・シグペンとのカルテットで、「グルーヴィン・ハイ」「オール・ザ・シングス・ユー・アー」「四月の想い出」等、スタンダード全9曲を収録。デンマークの名門ジャズ・レーベル、ストーリーヴィルからリリースされた名手ズートの円熟期の名演を収めたライブ・アルバム。

## ズートとリロイ・ヴィネガー

ズートと本誌由来のベースマン＝リロイ・ヴィネガーとは、1950年代にウェスト・コーストで共演する機会もあったようだが、アルバムとしては1枚のみ残されている。1956年4月1日にピバリー・ヒルズにあったピアニストのジョー・カストロが住んでいたアパート＝ファルコン・レアで録音されたズート・シムズ・ウィズ・ザ・ジョー・カストロ・トリオ名義の『ライブ・アット・ファルコン・レア』だ。ズートとリロイの他、ジョー・カストロ、ロン・ジェファソンが参加し8曲を収録。ズートのサクソとリロイのウォーキング・ベースが最高に心地良い隠れ名盤だ。

## ズートと日本

ズート・シムズの初来日は1976年5月で、フィル・ウッズ・グループのゲストとしての来日だった。2回目の来日は1977年6月で、自身のクインテットを率いて10ヶ所でコンサートを行った。クインテットのメンバーはバックキー・ピザレリ (g)、デイヴ・マッケンナ (p)、メイジャー・ホリー (b)、ジェイク・ハナ (ds)。ズートは通算5回来日し、最後の来日となったのは1983年の10月だった。ズートは酒飲みとして知られ、最後の来日時は休憩時間も飲み続けていたそう。アメリカでは酔っぱらってホテルのドアを破壊し弁償となった逸話も残されている。

# Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) Vol.48

## ~ Autumn In New York [ニューヨークの秋] ~

この曲はヴァーノン・デュークが1934年に作曲作詞を手掛け、マレー・アンダーソンがプロデュースしたミュージカル「サムズ・アップ (Thumbs Up)」の劇中歌として使われた曲。ミュージカルではJ. ハロルド・マレーによって歌われたが、大きな話題となることはなかった。その後1949年にフランク・シナトラが歌ってヒットした。以降、チャーリー・パーカーをはじめ、数多くのジャズ・アーティスト達に取り上げられ、現在まで親しまれている。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- タル・ファーロウ 『ニューヨークの秋』
- ケニー・ドーハム 『カフェ・ボヘミアのケニー・ドーハム』
- ケニー・バレル 『ブルー・ライツ Vol.1』
- ジョージ・ラッセル 『ニューヨーク、N.Y.』
- ダイアナ・クラール 『ディス・ドリーム・オブ・ユー』